



<CAM フィリピン・リサーチ・レポート>

2019年6月18日

フィリピンの2019年4月海外送金

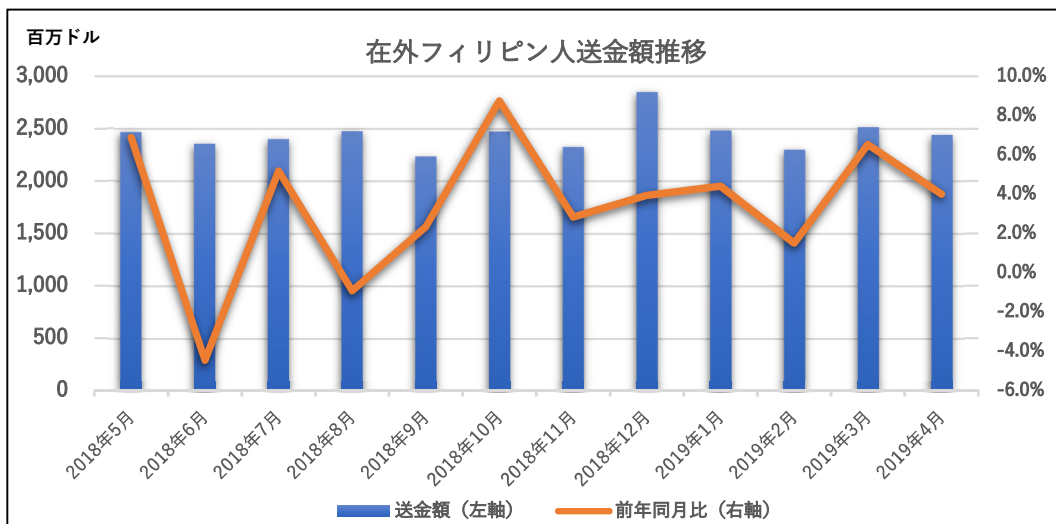
前年同月比+4%、24.4億ドル（約2,650億円）

フィリピン中央銀行の発表によると、2019年4月のフィリピン人海外出稼ぎ労働者（OFW）を含む在外フィリピン人からの送金額（銀行経由のみ）は、前年同月比4.0%増の24億4,100万米ドル（約2,650億円）だった。前月からは2.9%減少したが8カ月連続で前年同月を上回っている。

内訳は、家政婦（メイド）など陸上就労者からの送金額が前年同月比2.2%増の約18億米ドル（約1,950億円）、船員など海上就労者からが10.6%増の約6億米ドル（約650億円）だった。1～4月の送金額は前年同期比4.1%増の97億3,900万米ドル（約1兆560億円）となった。国・地域別では、米国からの送金が全体の35.9%で最も多く、サウジアラビア、シンガポール、アラブ首長国連邦（UAE）、英国、日本、カナダ、香港、カタール、ドイツが続いた。上位10カ国・地域で、全体の約78%を占めた。

OFWからの送金はフィリピンに住む世帯の大きな収入源で、経済成長の原動力になっているとされている。

フィリピン中央銀行の統計では、18年の在外フィリピン人からの送金額（銀行経由のみ）は前年比3.1%増の289億4,300万米ドル（3兆1,400億円）だった。世銀によれば、フィリピンの昨年の海外送金受領額は前年比3.1%増の338億2,700万米ドル（3兆6,700億円）。インド、中国、メキシコに次ぐ世界4位の規模だった。



出所：フィリピン中央銀行

以上